

無料

すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌



vol.
82

2025.11

女性の働き方・しごとの“今”

<https://www.scrum21.or.jp/>

女性の働き方・しごとの“今”

働くことは、収入を得るために、自分らしく生きていくために大切なこと。

今号では、すくらむ21「働き方・しごと相談」相談員の館野聰子さんと松尾容子さんのおふたりに、女性たちの「働く」をめぐる現在について語っていただきました。

女性のキャリア支援に関わるようになつた経緯を教えてください



館野さん

私は1970年生まれで、就活は就職氷河期が始まったころ。急にシャッターが降りて、何社受けても受からないという状況になったことが「女性が働くこと」というのを考え始めたきっかけでした。私自身が結婚や出産などで自分の思うようにキャリアを積めなかつたこともあります。自分がそうだったようにキャリア支援を必要としている人が世の中にいるのではないかと思ってキャリアカウンセラーの資格を取得。社労士の立場でハラスメントの防止対策をやってきました。



松尾さん

私は、まさに就職氷河期世代です。親の転勤で苦労したので、2000年代前半に地域限定職で大手旅行会社に入社しました。営業成績を頑張っても全国区の男性より給料が低い現状に憤りを覚えました。途中で総合職に変わりました。20代後半で企業の人材育成・組織開発を支援する人事コンサルティング会社に転職。子どもを2人出産しました。深夜まで残業するような働き方が子どもを産んだ瞬間にできなくなつて、自分だけ置いてけぼりになったような感覚になりました。どうやってこのあとの自分のキャリアを積んだらいいんだろうと迷ったときに、自分の経験を活かして、育休復帰後の働き方に悩む方向けの研修を提供したのが女性支援のスタートでした。

おふたりにとっての「キャリア」とは？



館野さん

アサーティブトレーニングの仲間に、子どもが小さいときに働くことに罪悪感を持ったり、正社員で働いている方がすごくうらやましかったという専業主婦の時代があったことを話したら、「働くってことは誰からも許可はいらないし自分でできるだけやりたいぶんだけやればいいんじゃない？だって働くって生きることだもんね」と言われたんです。働くことも、生活することも、全部まとめてキャリアだ、自分で好きに決めていいんだと思いました。



松尾さん

育休からの復職後、出産前と同じようには働くないと受容した瞬間があつて、どんな道かはわからないけど、自分の道を行くしかないんだと思ったときに、誰かが決めるとか、みんなと同じというのはキャリアにはきっとないんだと思いました。



館野さん

私はいろんな働き方を経験してきて、稼ぐ=働く・キャリアとは限らないかなあ、と思っていて、相談では、どう生きていきたいかという話をすることが多いです。もちろん、お金が必要な状況では稼げるようになりますにはどうするかということが大事ですが。



松尾さん

私は子どもを2人とも0歳・1歳から保育園に預けて、いわゆる「バリキャリ」っぽく働いてきた期間が長かったんですけれど、マネ

たての さとこ
館野 聰子 さん

国家資格キャリアコンサルタント／公認心理師／シニア
産業カウンセラー／NLPマスター／プラクティショナー／
すくらむ21「働き方・しごと相談」相談員

カウンセラーとして 20 年以上の経験を持つ。自身の専業
主婦・パート・個人事業主等の経験から、個人のライフキャ
リアの形成の支援を得意とする。働くことだけではない自分ら
しいライフキャリアの構築を支援します。

まつお ようこ
松尾 容子 さん

国家資格キャリアコンサルタント／すくらむ21
「働き方・しごと相談」相談員

大手旅行会社勤務後、人事コンサルティング会社に転
職し、法人営業、総務人事などの業務に従事。子育てな
ど自身の経験も踏まえてワーキングマザー向けのコーチ
ング、中高生へのキャリア教育支援、訓練前のキャリアコ
ンサルティングや就労支援などに携わってきた。



ージャーになってさらにその上へいかなきやと思っている人がその界隈は多くて。けれどある時に、「キャリアは低空飛行があっても良い」と言われて、すごくほっとしました。ペースダウンするとか、そういう経験もすべて生きるってことだしキャリアですよね。

女性の働き方と子育て・家事・介護などのケア役割



働く女性の半分以上は非正規雇用です。男性の育休取得率が上がったといっても、取得は数日から 1 週間程度という場合が多い。女性が主にケア役割を担い、短時間、低賃金の非正規労働にしか就けない状況は問題だと思います。男性は、子どもが生まれても介護が必要な人が出てきても働き方を変えなくてよいという価値観が根強く残っています。そのなかで、今の働いている女性は針に糸を通して細いキャリアを頑張ってつかんでいる感じがしています。



最近ではパートナーが 1 年間の育休を取得しているという家庭もあります。ただ、それは夫婦共に大企業で正規で働いているワーカップルといわれる方たち。変化はあるなと思いつつ、女性がケア役割を担う状況はあまり変わっていないと思います。



育休取得が必須という会社も出てきました。でも、中小企業では、男性はおろか女性も

育休をとった人がいないという会社も未だに何社もあるんです。大企業で働いている人は 30% (令和5年分民間給与実態統計調査より) くらいですから、中小企業で働いている人とは見えている景色が違う。男性育休のネックは会社の雰囲気と経済的な不安。2 人で休むとローンが払えないから夫は働いているという家庭も多いです。それと、復職後に出世が遅れるという問題。企業からも相談を受けるのですが、育休を取得した人とそうでない人を同じように処遇したら不公平ではないかと言われます。どうやって経済を成り立たせ、ケアをしながらキャリアを作っていくのかという社会構造の問題だと思います。



松尾さん

一方で、夫婦 2 人で育休をとったが故に 2 人ともキャリアの迷子になってしまった、という話も聞いたことがあります。また、数年に渡る育休取得をしたことで仕事のブランクが長くなりすぎて、どうしようという状態になってしまったり。



館野さん

正社員としてケア役割を負わない人が価値ある存在だという認識のもとに、ケア役割をまるっと女性にまわして、女性が子育て、家事、介護などを担うという性別役割分業の問題です。それが女性の低賃金につながっていく。子育てをしたい男性が会社を選ぶこともあると思います。でも上の人たちが皆、配偶者にケア役割を丸投げしていく、子育てやプライベートを大事にしたいという人は排除されてしまうというか、辞めてしまうことが多いですね。



松尾さん

これだけ労働人口が減ってきている中で、それを続けることは企業にとってもリスクですよね。

松尾さん

生き方、働き方の多様化



松尾さん

夫婦と子どもを基本単位とする制度はもう限界にきていると思います。単独世帯がとても増えている。80代と50代のふたり世帯も増えていると言われています。そういう変化が起きていることへの対応をしていかなければいけないのではと思います。



松尾さん

相談に来られる方のなかには、シングルで大手でバリバリと働いている人もいれば、ずっと非正規という人もいます。我慢していたものを解き放つように50代、60代で離婚を選択しようという人もいます。そのとき、子育てや介護などケア役割を長く担ってきたからこそ、専業主婦またはパートやアルバイトで働いてきていて、経済的な自立の課題に直面します。



松尾さん

経済面の問題が大きいときには、必要なお金はどれくらいか、一時的に借りるのか、生活保護など公的な支援を受けるのか、どこまで稼げるのかという現実的な事柄について

相談して、「こういう仕事をしたい」という希望はあるかもしれないけれど、今はどうやって稼ぐかが大事だよねという風に焦点を当てて、今までやってきたことやできることを一緒に探していくというイメージですね。



松尾さん

何となく子どもが大きくなったらというお話をされる方もいらっしゃいますが、時間軸は大事。いつまでにどうしたいのかということと一緒に整理していきます。



館野さん

スマールステップでやっていくことをお勧めしています。「私ができる仕事なんて全然ない」という方には一緒に求人検索してみると「あ、結構ある」と視野が広がります。本を紹介したり、履歴書の書き方を一緒に考え、添削したりなど少しずつ段階を踏んでいく感じですね。



松尾さん

不安は話すことでもだいぶ解消されると思うので、思い切り話してもらうということを大事にしています。不安に思うことを書きだして、言葉にすることをお手伝いしています。あとは館野さんのおっしゃるように、スマールステップを踏んで一歩ずつ行動をする、例えば相談の中で出てきたキーワードで検索したハローワークの求人情報を次回持ってきてくださいといった課題を出して行動につなげる。そんな支援をしています。

家庭での家事、育児、

■ 2018年
■ 2023年

家事関連の分担状況の変化

男性

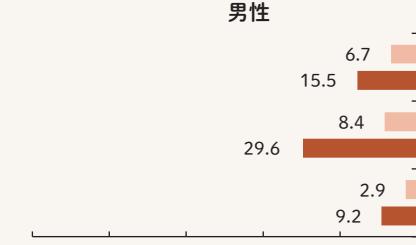


女性



育児関連の

男性



「資格」について



松尾さん
私はハローワークで資格取得支援のためのキャリアコンサルティングもやっていますが、資格を取ればどうにかなるわけではありません。どんな風にキャリアを積んでいきたいのかということを考えただく中で、どんな資格がよいか選択肢を広げるようになっています。人をケアするエッセンシャルワーク的な領域と、DXやAIなどの資格が採用も多く、国も取得を支援している状況はあります。



館野さん
資格がないとできない仕事と、なくてもできる仕事に分かれます。例えば、社労士は免許がないとできないけれど、コンサルなら免許がなくてもできます。その人のやりたいことの延長線上に資格があるかということと、取って意味がある資格なのかが大事です。



松尾さん
資格を取るには、お金も時間も投資するので長期的にどうしていきたいかということが大事です。例えば、簿記2級をとっても実務経験がないとなかなか採用されることは厳しいので、まずアルバイトでも経理補助の仕事にチャレンジしてみることを勧めることもあります。



館野さん
積極的にお勧めするのは2つの専門スキルの掛け合わせで活躍できる場が広がると

き。例えば看護師や保健師として働いている方がキャリアコンサルティングの勉強をすると役立ちます。

デジタル化の時代ですが



館野さん
最後に残るのはケアに関連する仕事だと言われていて、そういうところですと頑張ってきた人の仕事はなくならない思っています。なくなるのは単純労働。私の仕事はなくなるかもしれないで、どうしたらいいかというご相談で来られる方もいます。転職して今の年収が稼げるか、新しい仕事はやりたいことなのかということをお聞きして、迷いがあるなら、辞めろと言われるまでとどまるのも手ですよというお話をしたりもします。



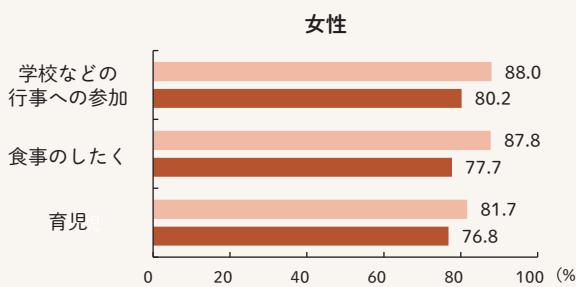
松尾さん
そのときにはリスクリキング（学び直し）が大切になってくるとも思いますね。



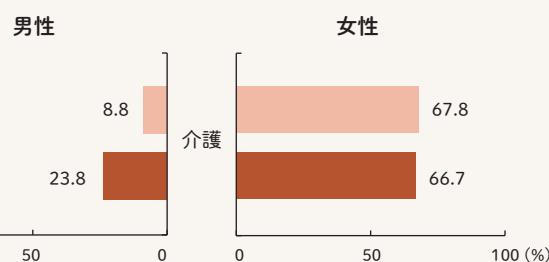
館野さん
でも中高年になってからのキャリア転換は難しい。中小企業で働いてきて、リスクリキングしてキャリア転換するタイミングがなかった人も多いのではと思います。例えば、請求書発送事務を長年やってきた方がその経験はどこで活かせるのかというとなかなか難しい。その人がどうすれば良かったのか、簡単に言えないなと思います。

介護の分担状況の変化

分担状況の変化



介護の分担状況変化



2023年に実施した「かわさきの男女共同参画に関するアンケート」によると、家事や育児、介護など家庭での分担状況について、「主に自分が中心」または「どちらかといえば自分が中心」と回答した割合をみると、多くの項目で女性が7~8割であったのに対し、男性は「ごみ捨て」のみが5割を超え、他は低い割合でした。特に男女差が大きいのは「学校などの行事への参加」「育児」「看護」で、その差はいずれも60ポイントを超えています。



松尾さん

70代まで働くと思うと働く期間は長いです。小さくてもいいから、キャリアの軸を増やすこと。好きなこと、今はお金にならなくてもこれが面白いと思うことを見つける。それを少しづつやっていくことでキャリアの軸が増えていく。副業も視野に入れて考えるのはどうかという話をすることも多いです。



松尾さん

私は、自分で資格を取って積み上げていくしかなかったんですよね。今になって思えば大変だったけれどもやってよかったって思います。日本では正社員は雇用が安定しているから、自分でキャリア開発しない人も多い。世の中全体で、自分でキャリアをつくっていくというように変わらなければならないと思います。



松尾さん

私は、コロナ禍や子育てのことなどで会社を辞めることになって、これからどうしようと突き付けられたのが5年前くらいのことです。そこからキャリアコンサルタントの資格を取って、現在は福祉就労支援の領域を中心に仕事をしていて、これを自分の生業にしていこうと思っています。キャリアの転機に直面することで、自分でも想定していなかった生き方を発見していいと思います。



館野さん

私は、常に競争していかなければいけない、ほかの人よりもできる自分じゃないといけないというプレッシャーを感じるんです。それは世の中全体の上昇志向的な考え方につながっている気がして。そうではない生き方がOKじゃないと感じてしまう。専業主婦であることの苦しさはそこにあるのではなかと思うんです。



館野さん

思ひぬ形で会社を辞めることになったときに、自分をみつめて前向きに諦めるというのか、今の状況はこうだから私はこういう選択をしようと思いました。今の自分を受容して、そのうえでこれからどうしようかと考えれば、競争とはまた違った世界観になるのかなあと思います。



館野さん

やりたい人やできる人はやればいい。でも、それが叶わない人もいます。そういう人に、今まで一生懸命頑張ってきたことを、「あのときこうすればよかった」と思ってほしくないです。すごく頑張ってきたじゃないですか、今できることをやっていきましょうよと言いたいです。



働くときに知っておきたい!

雇用保険制度の概要

厚生労働省サイトより



雇用保険の適用要件

- ①1週間の所定労働時間が20時間以上であること
- ②31日以上の雇用見込みがあること

厚生労働省サイトより



育児・介護休業法 令和7年(2025年)改正のポイント

独立行政法人福祉医療機構サイトより



「わたしとみんなの年金ポータル」

厚生労働省サイトより



年金制度改革法(令和7年5月30日成立)について 「社会保険の加入対象の拡大」

いわゆる106万円の壁は3年内に撤廃されます。

厚生労働省サイトより



労働契約(契約の締結、労働条件の変更、解雇等) に関する法令・ルール

厚生労働省サイトより



ご相談が多い事柄



館野さん

きっかけは家族の変化かな。夫との関係がうまくいかなくなったという方が多い気がします。あとは子どもの病気。最近多いのは、仕事で疲れすぎて体調を崩しての休職です。



松尾さん

職場での人間関係やコミュニケーションの悩みは多いですね。あとは、50代で、このまま定年を迎えるのがいいんだろうかと悩む方もいらっしゃいます。



館野さん

シングルの方の相談も多いですね。ちょっとしたことで貧困状態になってしまうのをどうにかしたいというお話が多いです。課題は最低賃金が安すぎることと男女の賃金格差です。女性の事務職の給料は低く抑えられています。ずっと働いてきたけれど、将来の年金も貯えも少ないし、どうしようと不安になるのは当然です。非正規で働く女性が多いですが、ケア役割を果たしながら正社員で働き続けることは難しく、短期の仕事に就いても時給が低く、生活できるだけの収入を得られない。これに私はすごく憤っています。



松尾さん

ケア役割を担って生きてきた女性が、離婚

したとたんに貧困に陥る。こんなにあつという間に経済的に困ってしまうのかというのは、お話を聞いていてすごく感じます。

知つておきたい法律、制度



館野さん

育児介護休業法が改正されて、3歳から小学校に入るまで会社は特別な措置をしなければなりません。あとは、年金ですね。厚生年金も法改正があって、事業所の規模で加入要件が段階的に変わります。注意してほしいのは、国民年金保険料未納だと無年金になってしまい、障害状態になっても障害年金が出ません。保険料免除制度などもあるので活用してもらいたいと思います。



松尾さん

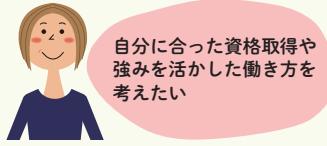
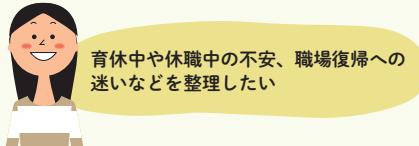
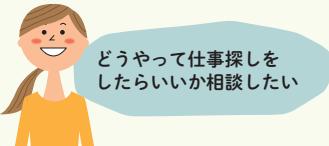
雇用保険も知っておいてほしいです。ご本人が雇用保険の加入要件を十分に理解していないことで失業手当をもらえない、といったケースもあります。



館野さん

有期雇用の無期転換申出制度についても知っておいてほしいです。ハラスメントについては、基本的には会社の中に相談窓口があるべきなんですが、そこが機能しなかったら労働基準監督署の総合労働相談へ相談してください。

女性のための働き方・しごと相談



開催日 毎月 第2・4水曜日、第1・3土曜日

9:00～・10:00～・11:00～・13:00～ ※1回45分

※祝日・年末年始はお休み

会場 すくらむ21 相談方法 来館・オンライン（Zoom）・電話（通話料は利用者負担）

相談料 無料

対象 働き方やしごとについて考えたい女性
(市内在住、在勤、在学者優先)

詳細・お申込みは、右記の二次元バーコードから



おふたりからのメッセージ



館野さん

どうすればいいか迷わない人はいないと思います。それを聞いてくれる人がいるというのはすごく大事。そんな人が周囲にいれば良いかもしれません。思い当たらないときには、ぜひ来てほしいです。あなたがどうしたいか、それがカギです。



松尾さん

すくらむ21に相談に来る方は、みなさん、何歳でも自分の人生を自分でどうにかしたいと思っていらっしゃいます。好きなこと、わくわくすることに目を向けると発見できることもあるんじゃないかなと思います。一緒にお話しすることでキャリアが少しずつ見えてきたりするのかなと思います。ぜひお越しください。



性と向き合うハードルを、もう少し低く —イギリスで見た検査とアフターピルの風景



「性感染症のチェックは前回いつやった?」

何度かデートをしていた相手からそう聞かれた私は、思わずドキッとしました。

「うーん、1年半くらい前かな…」そう答えながら、本当はもっと頻繁に受けなければと思いつつも、つい後回しにしてきた自分に気づきました。そもそも日本では、デートの相手からこんなに率直に聞かれることは少なく、この“普通の会話感”にも驚きました。

日本でも近年、性感染症(STD)への関心や検査の重要性は高まっていますが、実際に検査を受ける人はまだ多くありません。オンライン検査サービスも増えてきたとはいえ、費用は高め。クラミジアや淋病、HIV、梅毒などの基本的な検査を一通り受けると8,000円前後かかります。保健所や自治体では無料・匿名の検査もありますが、予約や結果の受け取りの手間を考えると「今じゃなくてもいいか」と思ってしまう人も多いのではないでしょうか。

私も「STD検査=高い・面倒」と思い込んでいましたが、先日友人から驚く話を聞きました。イギリスでは国民保健サービス(NHS)が提供するオンライン検査を無料で受けられるというのです。友人はデート相手と一緒に翌朝、一緒にスマホで検査キットを申し込んだとのことでした。

せっかくなので、私も試しに申し込んでみることにしました。簡単な質問に答え、5分ほどで完了。質問には性交渉に関する内容だけでなく、パートナーや家族からの暴力の有無を尋ねる項目もあり、性の健康を包括的に捉えている印象です。結果は1週間もかからずにSMSで届き、あまりの手軽さに驚きました。これだけ簡単で無料な

ら「一緒に受けてみよう」と言いやすいのも納得です。

また、別の友人とお茶をしていたときのことです。彼女は前日のデートの話を楽しそうにしてくれたあと、「避妊がちょっと心配だから、アフターピルを飲んでおこうかな」とサラリと言いました。同行して薬局へ行くと、カウンターで「アフターピルをください」と伝えた彼女。薬剤師に個室へ案内され、健康状態や最終月経などの簡単な質問を受けたそうで、5分ほどで戻ってきました。その後、会計を済ませて薬局を出たところで彼女は手にした薬をそのままパック。費用は15ポンド(約3,000円)ほど。あまりにもスムーズな流れに、私は少し感動しました。

イギリスでは国民保健サービスに加入していれば、基本的に誰でも無料で医療を受けられます。登録したかかりつけ医(GP)であればアフターピルも無料でもらえるそうです。ただしGPは予約に時間がかかるので知られ、受診まで1週間以上待つことも珍しくありません。そのためイギリスでは薬局で薬剤師に相談して薬を購入する「セルフメディケーション文化」が根づいています。そんな背景もあって、とくに服用の早さが求められるアフターピルは薬局での購入がごく一般的になっているのです。

日本でも、緊急避妊薬のOTC化(処方箋なしで薬局で購入できるようにすること)の議論が進んでいます。何かあったときに近所の薬局でアフターピルをすぐ入手でき、性感染症の検査も気軽に行える社会なら、私たちの「性の健康」はもっと身近で当たり前のものになるのではないか。そんなふうに感じました。



いとう
伊藤まり

1993年東京生まれ。編集ライター。大学在学中よりフェミニズム活動に参加し、署名活動やパフォーマンス、レクチャーなどを行う。現在はロンドン在住。ウェブメディア「パレットトーク」副編集長をつとめる傍ら、ジェンダーやフェミニズムに関する執筆や講演を行う。個人でもフェミニズムやロンドンでの暮らし、趣味の編み物について発信中。



雨季にかかる虹 バンコクプライドパレードから



タイでは5月から雨季が始まりました。今年は特に雨量が多いそうで、私もある日、バスで出かけると、大雨に遭い、道路は冠水し、バスの中にまで水が入ってくるような状況でした。そんなタイも今号が出る11月には乾季を迎えてます。

雨季まっただなか、バンコクに大きな虹がかかりました。それは、6月1日に行われたバンコク・プライドパレードです。プライドパレードは、LGBTQをはじめとするセクシュアル・マイノリティへの社会の理解を深め、すべての人に平等な社会を目指すイベントです。タイでは今年1月に結婚平等法が施行され、いわゆる同性婚が認められるようになってから迎える初めてのプライドパレードとして、とても大きな意味を持っていました。

私もこの日は学校の友人を誘って会場に行きました。LGBTQ+コミュニティのシンボルカラーであるレインボーを身に着けた人々でにぎわう街は、ポジティブなエネルギーにあふれ、パレードを歩いていない私たちもハッピーな気持ちで過ごしました。

私にはもう一つ、記憶に残るプライドパレードがあります。それは、イギリス・ブライトンで経験したプライドパレードです。イギリスで最も大きいと言われるパレードには、地元の学校や団体も参加しており、地域に根差したイベントであることを感じる一方、特に印象的だったのは、「プライドが抵抗から始まったことを忘れてはいけない」と書かれたメッセージをいくつも街中で目にしたことです。

プライドパレードの始まりは、1969年に起こっ

たストーンウォールの反乱と呼ばれる、セクシュアル・マイノリティに対する差別への抵抗運動と、その1年後に行われたデモ行進にあると言われています。これらの出来事がセクシュアル・マイノリティの権利獲得運動のきっかけになりました。プライドパレードとは単なるお祝いではなく、差別に対する抵抗から始まった歴史を忘れたくはないですね。

タイで同性婚が認められたことは大きな一歩だけれども、けして差別がなくなったわけではない。これは、タイで多くの人から聞く言葉です。今回のパレードの副題「From the victory of equal marriage to the full recognition of who we truly are」(意訳すると、「結婚の平等の実現から、ありのままの私たちが認められる社会へ」という感じでしょうか)にも表れています。ちがいを排除するのではなく、ありのままの‘私たち’で生きられる社会の実現を、虹色に染まる街角から願いました。



荒川 泰輝

1993年、茨城県生まれ。早稲田大学卒業、英国・サセックス大学ジェンダー・暴力・紛争修士課程修了。男女共同参画センター等での勤務を経て、タイに渡る。ジェンダーと開発学の修士課程を修了し、引き続きタイで勉強を続けています。





つながる ひろがる ふくらむ

BOOKS

すくらむ21スタッフのおすすめ図書を書評とともにご紹介します。



2021年12月発行
(著者) ベン・モンゴメリ
(訳) 浜本マヤ
(出版) 山と渓谷社

『グランマ・ゲイトウッドのロングトレイル』

アメリカ東部のジョージア州からメイン州まで2000マイル続くトレッキング専用路、それがア巴拉チアン・トレイル。今から70年前にこのロングトレイルを女性で初めて踏破したのがエマ・ゲイトウッドだ。長年DVに苦しめられ、働きづくめだったエマが夫との関係に終止符を打ったとき、彼女は50代半ばになっていた。11人の子ども、23人の孫と離れてトレイルをたったひとりで歩き通したのは67歳のときだ。いくつもの山を越え、村で初めて知り合った人に一夜の宿と食事をふるまわれ、ときに

は嵐のなかを歩き続け、あやうくガラガラヘビやクマに出くわしそうになりながらのトレッキングがどのようなものだったのかは、「トレイルを歩くのは楽しいだろうなと思っていましたけれど、そんなもんじゃないということはすぐにわかりましたよ」というエマの言葉通り、本書を読めばその様子は想像に難くない。「彼女が何に向かっていたのか、それとも何かから遠ざかろうとしていたのか、私にはわからないのだ」と著者は書いている。もしかしたら、その両方だったのかもしれない。



2016年10月発行
(文) バーバラ・ハーカート
(絵) ヴァネッサ・ブランティーネー=ニュートン
(訳) 杉田七重
(出版) さ・え・ら書房

『キルトでつづるものがたり』

手もとにあるキルトを見るたびに、色合い、手触りに癒され素敵なお品だなと思い、この絵本のことを思い出す。

今は性別にかかわらずキルトを楽しむことが選べる時代。けれども祖母たちの時代は、針や糸は女たちにとって好むと好まざるにかかわらず使いこなさなければならない道具だった。それよりずっと前、この絵本は、黒人奴隸として読み書きを習うことが許されなかった時代に、過酷な労働に耐え、貧困のなかでも強く生き抜いてきた女性たちの物語。

その時代、キルトは何かを伝える手段でもあり、創作している時間、精神を自由にしてくれるものでもあった。「想像力というつばさがあれば、心は自由に飛んでいい！」これは、想像力を糧に厳しい日々を生き抜いたハリエット・パワーズの一生を紹介するこの絵本に出てくるメッセージ。1針ひとはり縫い合わせて作るキルトのように、探究心と高い志を持って挑戦していくハリエットの力強さや切なさを綴った、大人にもおススメの1冊。



2025年4月発行
(著者) 山内マリコ
(出版) 集英社文庫

『一心同体だった』

1980年生まれの女性が、10歳から40歳までの平成30年史を背景に、それぞれの年代を生きる女同士の友情をバトンのように紡いでいく。8人の女性が1章ごとに主人公となる、シスターフッドをテーマとした全8章の短編集。

自分と世代が重なることもあるのか、現在よりは色濃く存在していた、女であることで感じる生きづらさへの描写が妙に生き生きと、女社会の内側を言語化する著者の巧みな表現に共鳴する。特に、彼女たちが声に出さずともあらゆる節目で社会や自分自身と

闘ってきた20代、30代を描いた章では、自分の就職氷河期でのリアルな経験やライフステージの変化に伴い初めて直面した困難などの記憶とリンクし、懐かしさと苦しさが同時に蘇ってきた。

自身を取り巻く環境が変化することで、友人との距離感も多少変化していく。当時は密だったけれど時を経て疎遠になることもある。それでもあの時間は尊いものだったことに変わりはない。そして、今の自分が築いている友との関係もかけがえのないものであると信じている。

Purple Action

壁につけるパープル色のタッセルをみんなで作ろう！

今年の冬は、パープルタッセルで彩ったクリスマスツリーを館内に飾ります。



参加型展示 パープルアクション 2025 ウォールタッセルツリー

パープルリボン運動は、ドメスティック・バイオレンス (DV) をはじめ、性暴力や虐待に関心を呼び起こすとともに、暴力の下に身を置いている人々をサポートし被害者をエンパワメントしようとの願いから、世界40か国以上に広がっている、国際的なネットワークに発展した草の根運動です。

紫色が「女性への暴力根絶」のシンボルカラーとされているため、日本では、毎年11月12日から11月25日までの「女性に対する暴力をなくす運動」期間に、全国のランドマークなどが紫色にライトアップされ、暴力根絶のメッセージが発信されます。運動のシンボルであるパープルリボンは、暴力の被害者に「ひとりで悩まず、まずは相談をしてください」というメッセージを伝えています。

今年はパープルを用いたタッセルづくりを参加型展示として行います。

展示期間 11/12～12/28

制作・募集期間 ~11/30

毛糸や古布など、ご家庭にある環境にやさしい素材を使って、壁に飾る紫色のタッセルツリーを制作・募集し、展示します。すくらむ21館内では、必要な材料を用意していますので、その場でタッセルを制作することもできます。展示せずにお持ち帰りいただくことも可能です。



パープルタッセルの作り方

Size

全長 30cm 以内

01 材料を細長く
切っていきます。



02 手前から細く折り
たたんでいきます。



03 真ん中でひねり中心に
穴をあけて曲げます。



04 セロテープで
とめたら完成！



紙のタッセル

05 布の束にむらさきの
輪ゴムをくくりつけます。



06 紐を通して結び
つけたら完成！



布のタッセル

タッセルの制作・募集、
展示についての詳細は
すくらむ21の
ホームページを
ご覧ください。



情報提供室(4F)ライブラリのご案内

すくらむ21では、「生き方」「働く」「防災」「介護」「子育て」「LGBTQ+」「ジェンダー」「女性史」など身近なことから専門的なものまで、男女共同参画に関する書籍や小説、マンガ、雑誌等を毎月購入し、4Fの情報提供室に取り揃えています。また、ジェンダーに関する映画やお子様向け映画のDVDも貸し出ししています。

本・雑誌・マンガ・DVDを貸し出しています。

開室時間 9:00～21:30(貸し出し手続きは19時まで)

貸出方法 ご希望の書籍を持って、1階窓口までお越しください。
お名前、ご住所を確認できる書類をご提示いただきます。
毎月の新着図書や絵本・児童書・DVDは、1階・第1交流室に展示しています。



貸出期間 図書：2週間(おひとり5冊まで)
DVD：1週間(おひとり3本まで)
延長をご希望の場合は、窓口・電話にてご連絡ください



自習スペースや1日2時間まで無料で使えるパソコンもぜひご利用ください！



新着図書は
1Fの第1交流室に展示中。

新着図書情報や
すくらむ21で開催する
イベントや講座は
公式SNSでも発信中！

@scrum21_kawasaki

Instagramの
フォローをお願いします。

